木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志編『開発政治学入門：途上国開発戦略におけるガバナンス』

渡邉，智明
九州大学大学院法学研究院：協力研究員

Watanabe，Tomoaki
Faculty of Law，Kyushu University：Research Fellow

https://doi.org/10.15017/26467
開発政治学入門 — 途上国開発戦略におけるガバナンス —

木村宏恒・近藤久洋・金丸裕志編

紹介

本書は、「開発政治学」というテーマ設定の下、途上国開発戦略についての先行研究を紹介し、体系的な理解を構築するものである。また、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本书は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようとするものである。本書は、単に執筆者の構成を提供しようと
第五章「民主化の条件」（近藤久洋）は既存の民主化をめぐる議論で列挙されている条件が、途上国において満たされないという認識に立って、その背景を探り、開発と両立する民主主義の定着化について検討している。第六章「多民族国家における国民統合と民主化」（金丸裕志）は、紛争を惹起する例をめぐる多くの途上国が抱える課題について考察している。第七章「政党政治と民主主義の過程」という国内の対立の克服、一党支配による自由の抑圧という課題を検討しながら、途上国新型中間層をもとに市民社会と民主主義の関係が検討される。その中で、市民社会が国家対立的なものと国家とのパートナーシップを指向するものが存在し、民主化の各段階で果たす機能が異なることを指摘する。第九章「ローカル・ガバナンスの理論を参照しながら、地方の開発体制と中央の地域開発への支援、地方有効の支配構造と参加型開発、さらに地方政府の能力構築まで、幅広い問題を取り上げている。

第十一章「開発援助とガバナンス」は、国際社会が広くガバナンスに関わる課題として取り上げている。問題が、開発援助による紛争解決の内容と変化、援助の選別などの問題について批判的な検討を行っている。第十二章「平和構築支援の歴史と現状」（佐藤秀雄）は、平和構築支援の歴史を概観し、第十三章「開発援助と民主化支援の関連」という今後求められる方向性を示唆するものとなっている。これまで国際社会が行ってきた民主化支援の内容と変化、援助の選別などの問題について批判的な検討を行っている。